

環境報告書2025

Environmental Report 2025



Top Message



昨年度の世界情勢は、経済・政治・紛争・自然災害等の動きが、激烈かつ混沌とした一年となりました。このような状況は今後も続き、国内の産業活動や生活に少なからず影響を及ぼすと想定されます。また、資源循環型経済への移行がグローバル規模で加速しており、産業廃棄物処理事業は廃棄物減少への負の影響と、リサイクルやリユースでの新たなビジネスチャンスに挑戦すべき事業環境となっております。

このような状況下において、昨年度、当社は医療廃棄物の収集運搬体制強化による安定的な数量の確保を目的として「日本メディカル・ウェイスト・マネジメント株式会社」を子会社化しました。最終処分場を保有する「ひめゆり総業株式会社」と合わせ、ワンストップサービスの充実・強化を継続しております。今後も、『私たちは独自技術を駆使した環境・リサイクル事業を通じて、資源循環型社会の構築に貢献します』を新中長期経営計画におけるビジョンとして掲げ、企業の持続的価値向上に挑戦し続けてまいります。

また、当社は基本方針の一つに「地域と全従業員が安心と幸福を共有できる事業運営」を掲げており、その根幹となるのが「安全はすべてに優先する」であります。安全、環境、品質の向上に継続的に取り組み、お客様や地域の皆様をはじめとする全てのステークホルダーの皆様からより一層信頼される企業に成長し続けるよう努めてまいります。

今後とも、格別のご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願ひ申し上げます。

代表取締役社長 並川 昌弘

Contents

クレハ環境の環境経営	
事業の概要	2
コーポレート・ガバナンス	3
環境目標の設定と取り組み状況	4
環境ビジョン	6
カーボンニュートラルに向けて	7
廃棄物処理事業	
ウェステックいわき	8
ウェステックかながわ	10
インプット・アウトプットの状況	12
各種排出物の測定・分析値	13
廃棄物処理を通した社会貢献	14
サーマルリカバリー	15
環境エンジニアリング事業	
VOC排ガス処理設備「GASTAK」	16
水処理設備　浄水・水質浄化	18
トピックス	
安全文化の構築	19
さまざまな取り組み	20
ひめゆり総業の取り組み	23
会社情報	
会社概要　事業拠点　グループ会社	24
沿革　お問い合わせ クレハグループレスポンシブル・ケア方針	25

企業理念

- 人と社会そして地球環境との調和を大切にする会社をめざして、たゆまぬ努力を続けます。
- 安全なサービスと商品を提供し、住みよい豊かな社会づくりに貢献します。
- 地域に根ざした会社として、地域と共に発展し続けます。
- 法令および社会的規範を遵守し、オープンな企業活動を通じて、社会から信頼される誠実な企業市民をめざします。
- 社員一人一人が互いの人格、個性を尊重し、創造力とチームワークを最大限に高め、魅力あふれる企業風土をつくります。
- 時代の流れを先取りした技術の研究と開発に、情熱を持って取り組みます。

編集方針

本報告書は、2024年度の当社のレスポンシブル・ケア(RC)活動をはじめとする様々な取り組みについてご紹介しています。

■ 参考にしたガイドライン

『環境報告ガイドライン2018年版』…環境省

■ 対象期間

2024年4月1日～2025年3月31日
一部に2025年度内及び今後の予定を含みます。

■ 対象範囲

全部署

■ 免責事項

本報告書には、発行時点における計画または将来予測が含まれています。この将来予測については諸条件の変化により異なるものとなる可能性があります。また、記載の表やグラフの数値は算出方法の見直しなどにより、一部過年度データを修正している項目及び端数処理により合計に誤差が発生している項目があります。皆様にはご了解いただきますようお願いいたします。

当社のSDGsへの取り組みも紹介します。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



事業の概要

主要な事業

①産業廃棄物の収集運搬・処分

福島県いわき市（ウェステックいわき）、神奈川県川崎市（ウェステックかながわ）に中間処理施設を有しています。グループ会社である日本メディカル・ウェイスト・マネジメント株による収集運搬、ひめゆり総業株の最終処分場と合わせ、処理の難しい廃棄物でもワンストップでの処理が可能です。

多様化する産業廃棄物を安全適正に処理することを第一に考え、処理技術の研究開発や学会発表も行っています。

②環境修復事業

これまで培った独自の技術と多くの実績、ノウハウを基に、環境汚染または汚染リスクのあるサイトの修復事業を行っています。汚染状況の調査から廃棄物の撤去・処分、原状回復後のモニタリングまで一貫体制で行っています。

環境修復の技術は、震災や豪雨被害により発生した災害廃棄物の迅速かつ適正な処理にも活かされ、地域の災害復興に貢献しています。

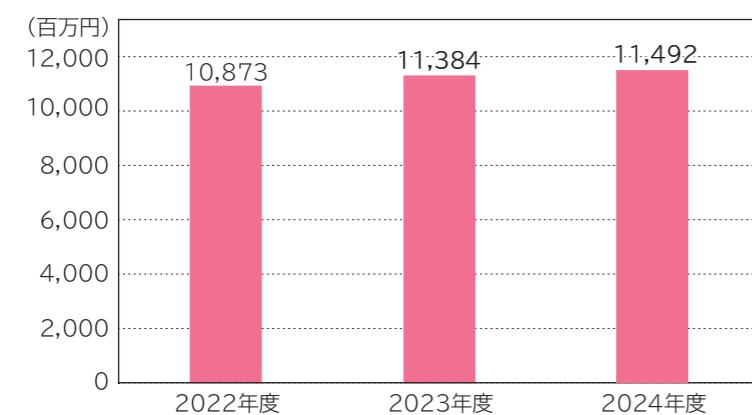
③環境エンジニアリング事業

大気環境や水環境に係る環境対策設備の設計・販売を行っています。排ガス中に含まれる有機溶剤の回収や有害・悪臭物質の除去を行う排ガス処理設備のほか、浄水場における適正な水質管理の実現や水質改善による水道施設の腐食防止を目的とした水処理設備があります。

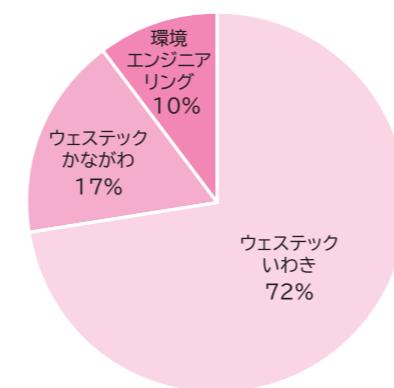
④発電事業

ウェステックかながわでは、廃棄物を焼却する際に発生した熱で発電（サーマルリカバリー）を行っています。

売上高実績推移



部門別売上構成比 (2024年度)

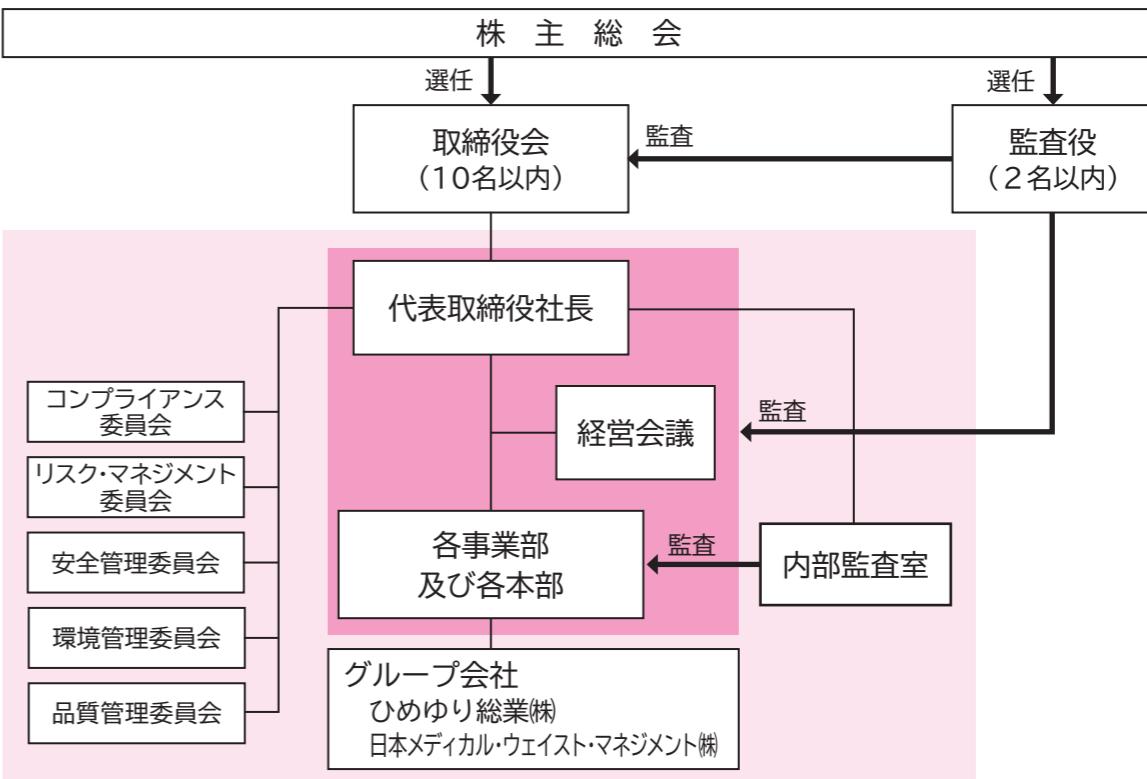


コーポレート・ガバナンス

当社はクレハグループの一員として、クレハグループ企業行動憲章に則り、ガバナンスの充実及び実効性の向上を図ります。

コーポレート・ガバナンス体制

コーポレート・ガバナンス体制図



◆取締役会

取締役会は、社外取締役を含む、合計3名で構成されています。毎月1回開催し、重要な経営事項の決定と業務執行状況の報告を行っています。

◆経営会議

経営会議は、代表取締役社長以下の執行役員を主要メンバーとして構成し、当社の経営に関する重要案件などについて審議しています。

◆監査役

監査役は、取締役会の決議事項や報告事項の審議過程を把握し、その職務執行の監査を行っています。

◆内部監査室

他部門から独立した内部監査室は、会社の管理体制などの適切性や有効性を評価検証し、改善に関する指摘や提言、取締役会などへの監査結果の報告を行うことにより、経営効率及び社会的信頼度の向上に寄与する体制を確保しています。



環境目標の設定と取り組み状況

マネジメントシステム基本方針

考え方／目標／目的

法令・規制・自主基準を順守し、マネジメントシステムによる品質・環境・労働安全衛生に関する諸活動を通じ、地域および事業を取り巻くステークホルダーの信頼を深め、企業価値の向上に努める。

活動方針

- 提供する製品・サービスの品質を向上させ、顧客満足度アップを目指す。
- 環境事業の経験を活かし、環境保護に努める。
- 安全衛生管理方針に基づき、安心安全で快適な職場づくりを行う。
特に墜落・転落、薬傷、転倒、重機災害の防止に努める。

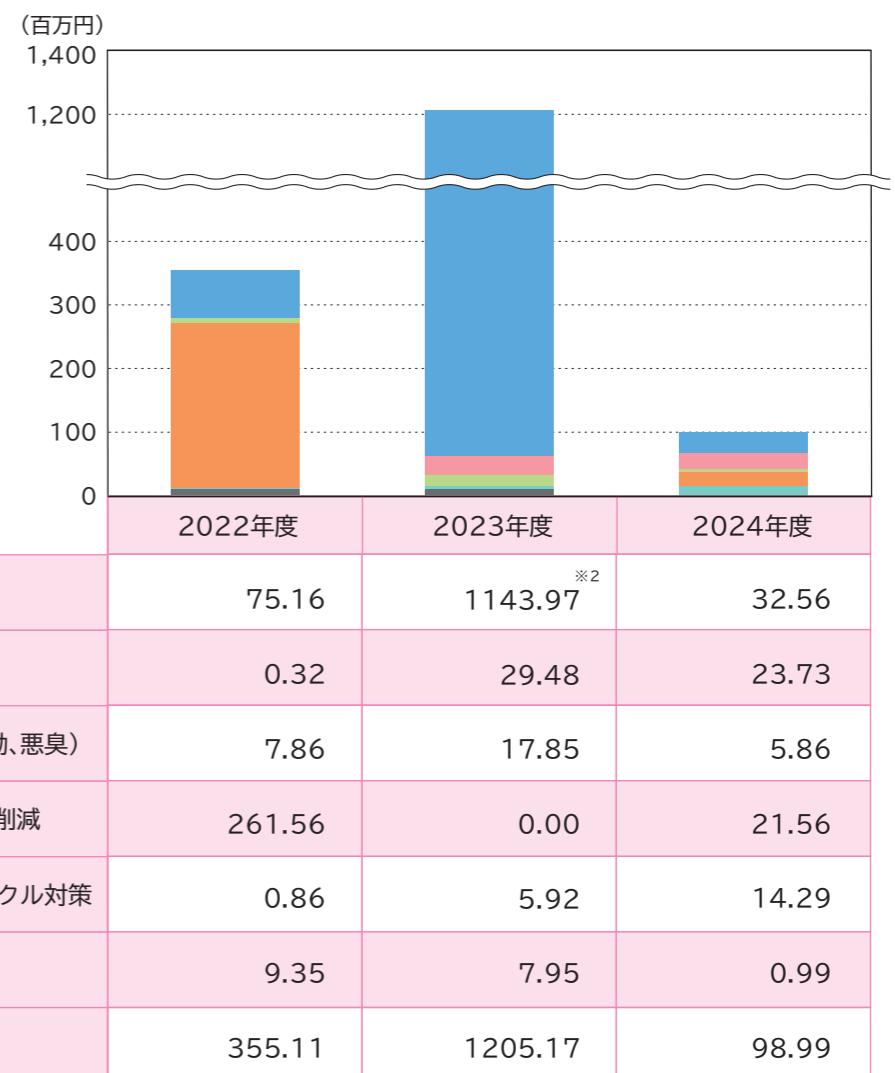
2022年5月12日改定

環境に関する法令・規制等の順守状況

当社はマネジメントシステム基本方針に「法令・規制・自主基準の順守」を掲げています。環境マネジメントシステム(ISO14001)を活用して法令・規制等の登録、順守状況の評価を実施し、評価の結果、2024年度も順守状況を維持していることを確認しています。

環境対策投資

2024年度は、施設の計器類更新などで約99百万円の環境対策投資を実施しました。



※2 2023年度はウェステックいわきの脱水機の更新・増設を実施した。

環境マネジメントシステム(ISO14001)の運用状況

環境活動に関する 計画→実行→検証→改善 のプロセスを適切に管理することを目的として、環境管理委員会を毎月開催しました。

2024年度 ISO14001の環境目標と結果

環境目標	目標値	結果	説明
〈総務部〉 社内及び社外(主に会社周辺)の環境美化・環境保護に努める	地域美化活動の実施 (年8回以上)	達成	8回実施し、目標を達成しました。
〈営業本部〉 廃棄物社外漏洩の発生件数ゼロ	0件	達成	廃棄物社外漏洩の発生件数ゼロを達成しました。
〈ウェステックいわき〉 環境苦情件数ゼロ	0件	達成	環境苦情件数ゼロを達成しました。
〈ウェステックかながわ〉 環境苦情件数ゼロ	0件	達成	環境苦情件数ゼロを達成しました。
〈環境技術部〉 外部工事における環境事故ゼロ	0件	達成	環境事故ゼロを達成しました。
〈環境営業部〉 環境対策装置の販売・納入により、CO ₂ 排出削減及び有効利用へ寄与	55 t／年	達成	GASTAK ^{※1} 1基及び炭酸ガス注入設備1基の販売・納入により、CO ₂ の排出削減量及び有効利用量として合計66t／年以上に寄与しました。

※1 VOC排ガス処理設備。

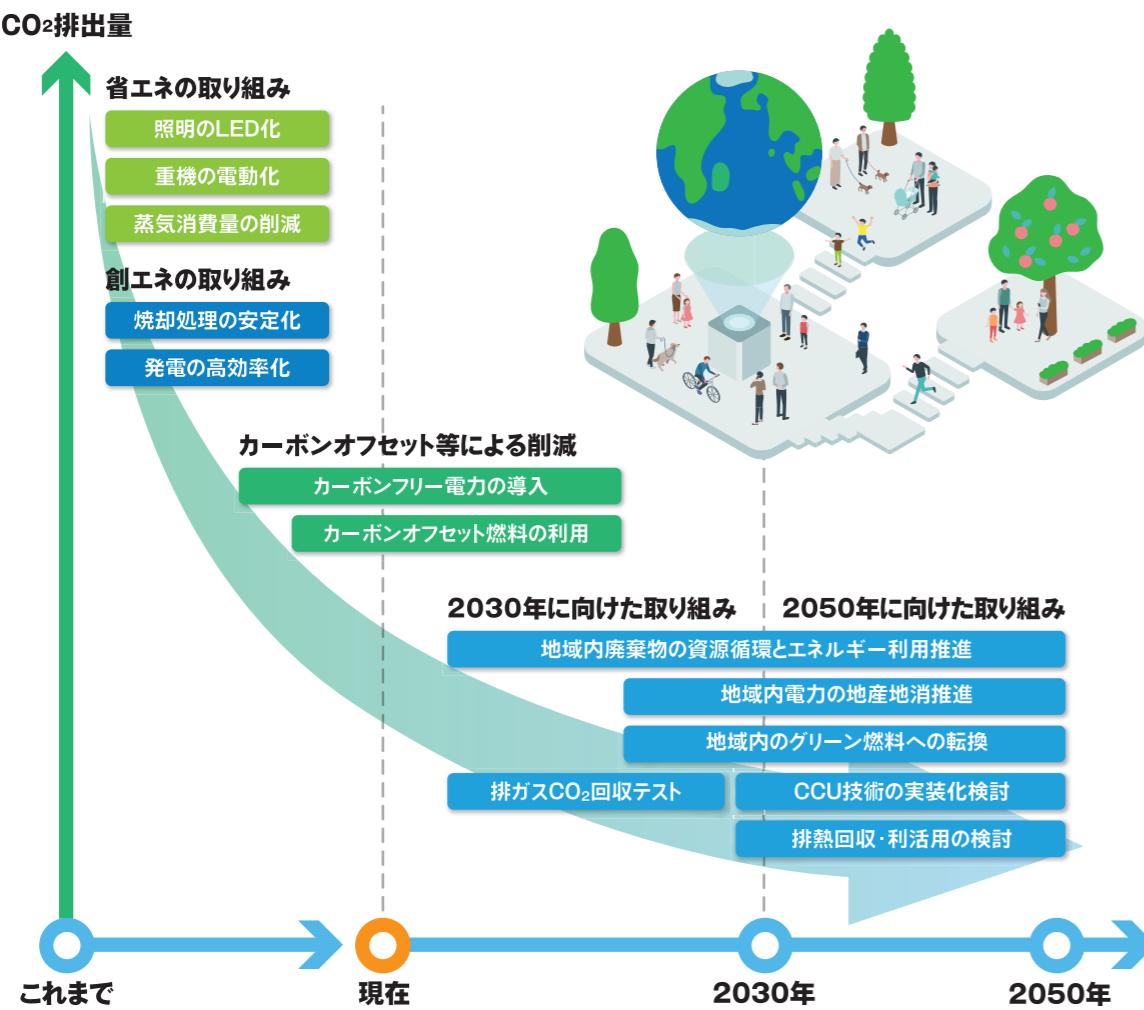


環境ビジョン

当社は、独自技術を駆使した産業廃棄物の適正処理と熱回収を通じて、地球環境保全及び資源循環型社会の構築に貢献してきました。

近年では、2050年度のカーボンニュートラル達成を目指し、中間目標として、2030年度のエネルギー起源CO₂^{※1}排出量を2013年度比で30%削減することを掲げています。達成に向けて省エネのさらなる取り組みのほか、カーボンフリー電力及びカーボンオフセット^{※2}燃料の活用を進めています。また、CO₂回収・固定化にも挑戦し、廃棄物由来である非エネルギー起源CO₂^{※3}排出量を削減する課題に取り組んでいます。

さらに、有害物質の無害化処理を土台とした再資源化技術の開発を進め、新たなリサイクル事業を通じて、資源循環型社会の実現に貢献してまいります。



※1 エネルギー起源CO₂：燃料を燃焼することによって発生するCO₂。

(例)石炭、石油、天然ガスなどの燃料を燃やすことによって発生するCO₂。

※2 カーボンオフセット：CO₂などの温室効果ガスを他の活動で削減した分と相殺すること。

※3 非エネルギー起源CO₂：エネルギー起源CO₂以外のCO₂。(例)廃棄物の焼却から発生するCO₂。

カーボンニュートラルに向けて

これまでの取り組み

◆省エネ活動の推進

事業活動のすべてにおいて、地球環境保全と低炭素型社会を目指したエネルギーの有効利用に努め、省エネルギーを推進しています。

◆カーボンフリー電力の導入

購入電力を再生可能エネルギー（実質再エネ含む）に切り替えることで、エネルギー起源CO₂排出量の削減を進めています。

◆カーボンクレジットの利活用

焼却炉の燃料である都市ガスと重機の燃料である軽油をカーボンオフセット燃料へ切り替えることで、エネルギー起源CO₂排出量の削減を進めています。

また、削減困難な廃棄物焼却由来のCO₂に対しては、カーボンクレジットによるオフセットの取り組みを進めています。

これらの活動により、2025年度以降のウェステックかながわはCO₂排出量ゼロ（SHK制度^{※4}）の達成が可能となります。

今後の取り組み

◆グリーン燃料の利活用検討

カーボンオフセット燃料を地域内のグリーン燃料に切り替えることで、直接排出量^{※5}の削減を進めます。

◆CCU^{※6} 技術の実装化検討

焼却炉の排ガスからCCUを実現するため、CO₂回収・固定化のための装置導入を検討しています。2026年5月には、ウェステックかながわにて小型のCO₂分離回収装置の実証試験を予定しており、これにより非エネルギー起源CO₂排出量の削減に挑戦していきます。



2023年2月、いわき市カーボンニュートラル認同証明書を取得しました。



2025年4月、川崎市脱炭素行動宣言の認証書を取得しました。

※4 SHK制度(温室効果ガス排出量の算定・報告・公表制度)：地球温暖化対策の推進に関する法律(温対法)に基づき、温室効果ガスを多量に排出する事業者に、自らの温室効果ガスの排出量算定と国への報告を義務付け、報告された情報を国が集計・公表する制度。

※5 直接排出量：企業や施設が自らの活動から直接排出するCO₂。

※6 CCU (CO₂の分離、回収、有効利用)：発電所や化学工場などから排出されたCO₂を、他の気体から分離して回収し、新たな製品の製造などに利用するプロセス。



ウェステックいわき

ウェステックいわきの7号焼却炉、8号焼却炉では、塩素・シリコン類を含む廃油、汚泥、廃プラスチック、廃酸、廃アルカリ及び医療廃棄物を中心に各種廃棄物を焼却処理しています。

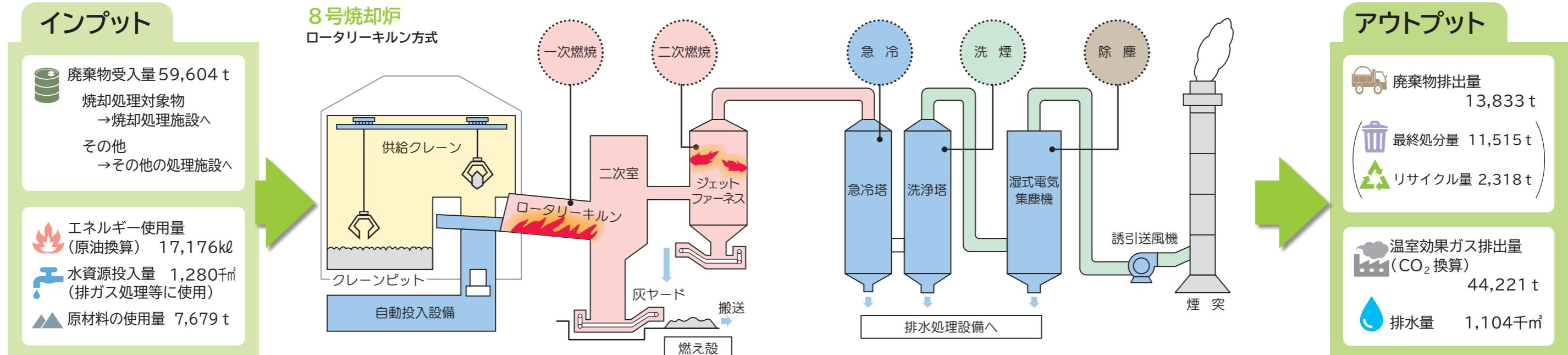


ウェステックいわき



ウェステック企画部は、事業運営に関わる各種データやコストの分析、法律・規制順守に関する事から焼却関連施設の労務作業まで幅広い分野を支えている部署です。これからも安全・安心・安定操業を支えてまいります。

ウェステック事業部 ウェステック企画部長
鈴木 怜

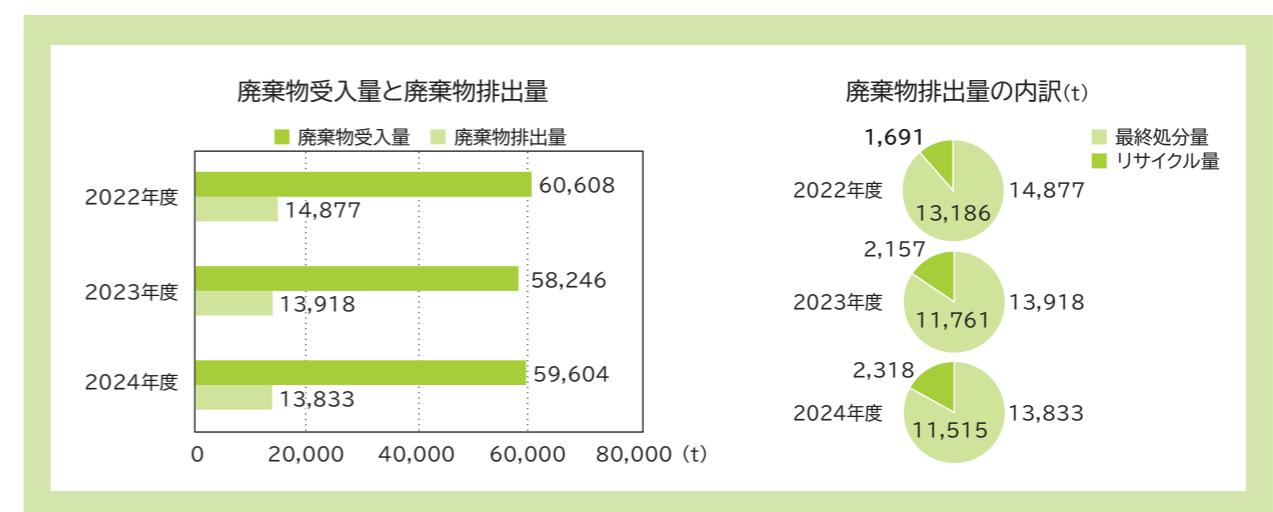


7号焼却炉	
汚泥の焼却施設	182m ³ /日
廃油の焼却施設	110m ³ /日
廃プラスチック類の焼却施設	104t/日
シアノ化合物の分解施設	202m ³ /日
産業廃棄物の焼却施設	238t/日



7号焼却炉の医療廃棄物自動投入設備を更新し、作業効率の向上に寄与しました。

8号焼却炉	
汚泥の焼却施設	182m ³ /日
廃油の焼却施設	118m ³ /日
廃プラスチック類の焼却施設	104t/日
シアノ化合物の分解施設	266m ³ /日
産業廃棄物の焼却施設	238t/日



ウェステックかながわ

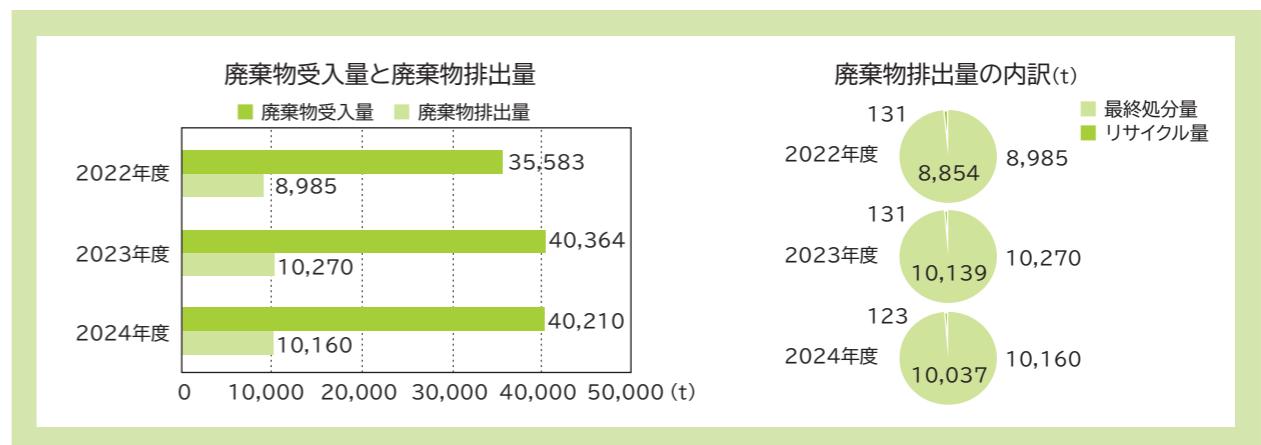
ウェステックかながわでは、産業廃棄物を焼却処理するとともに、排熱を有効に利用して発電しています。

熱量や性状が様々な廃棄物から、効率よく、安定して電力を供給できるよう努めています。



処理技術課は、2グループで構成され、廃棄物の搬入から処理まで一貫して業務を担当しております。前処理グループは、搬入された廃棄物のチェックを、運転グループは、焼却炉による廃棄物の処理・発電に関する業務を行っております。どちらのグループもお客様の期待に応えられるよう、安全作業を第一に日々業務に取り組んでおります。

ウェステック事業部 かながわ処理部 処理技術課長 村田 拓志

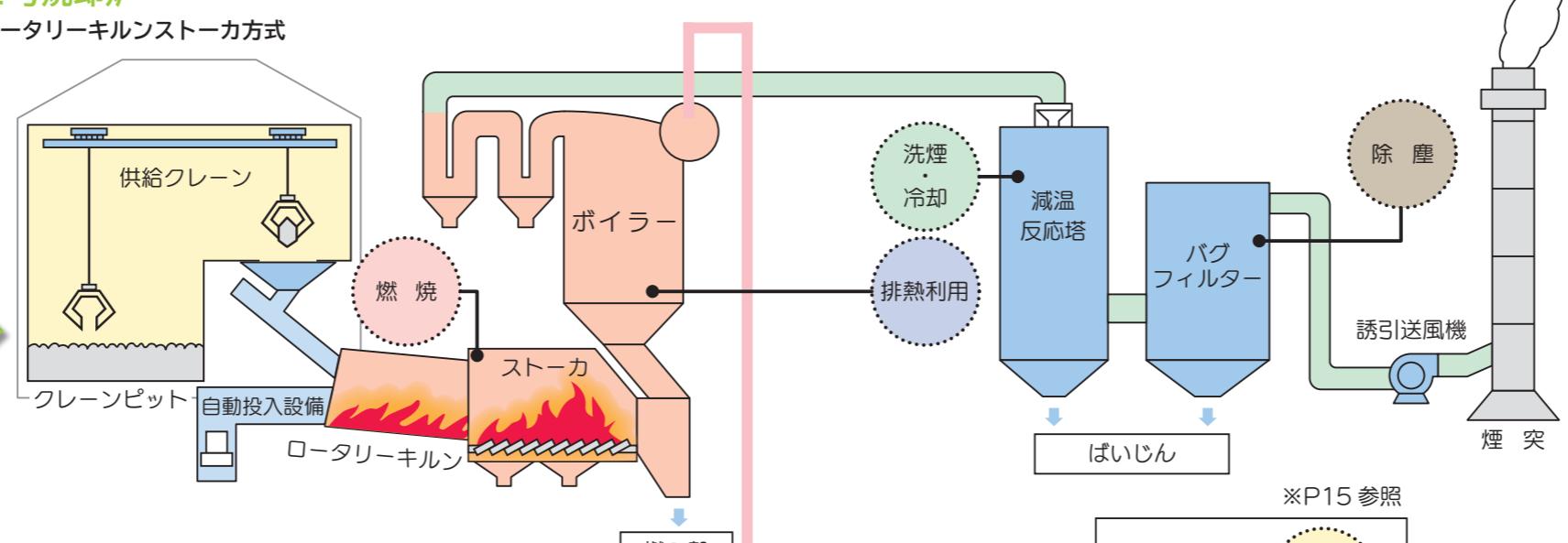


インプット

廃棄物受入量 40,210 t 焼却処理対象物 →焼却処理施設へ その他 →その他の処理施設へ
エネルギー使用量 (原油換算) 8,344kWh
水資源投入量 56千m ³
原材料の使用量 1,916 t

1号焼却炉・2号焼却炉

ロータリーキルンストーカ方式



アウトプット

廃棄物排出量 10,160 t (最終処分量 10,037 t) (リサイクル量 123 t)
温室効果ガス排出量 (CO ₂ 換算) 365 t 排水量※ 0 m ³

※ウェステックかながわではクローズドシステム(排水を外部に出さず再利用するシステム)を採用しています。

1号焼却炉・2号焼却炉計

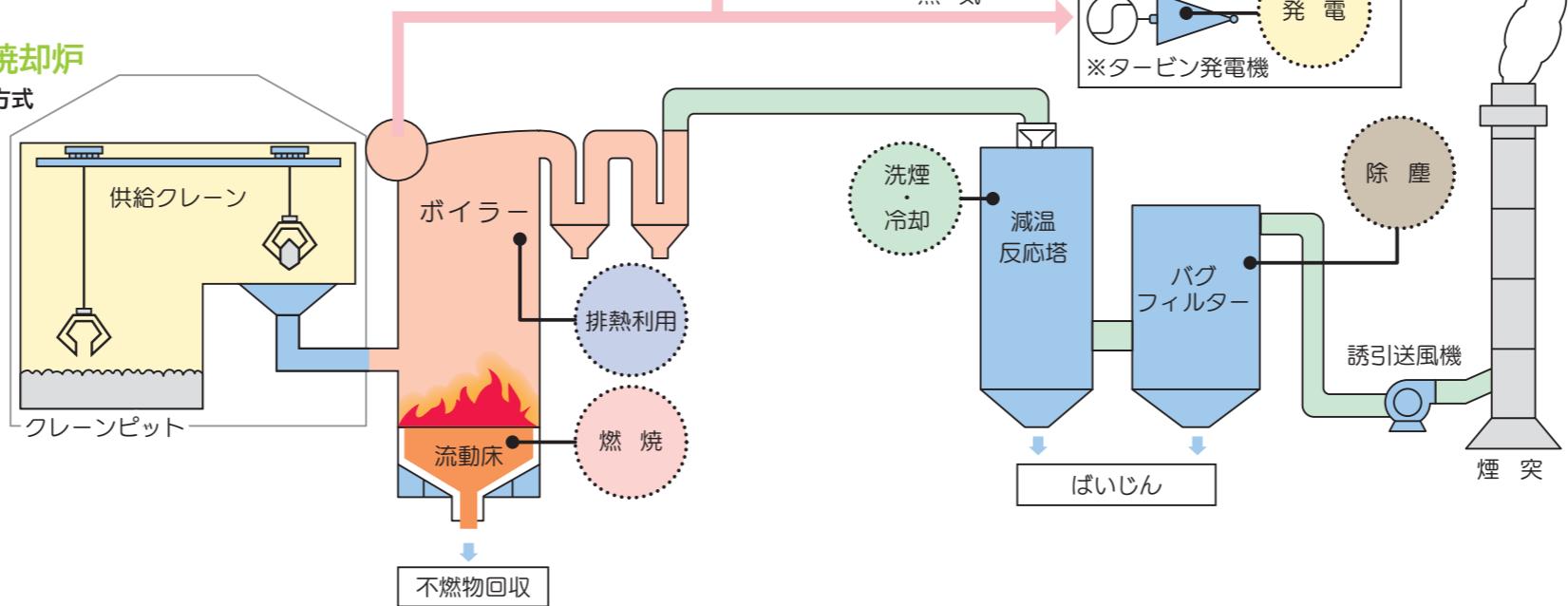
混合焼却	140t/日
汚泥の焼却施設	112m ³ /日
廃油の焼却施設	150m ³ /日
廃プラスチック類の焼却施設	80t/日
その他産業廃棄物の焼却施設	230t/日

3号焼却炉

混合焼却	70t/日
汚泥の焼却施設	48m ³ /日
廃油の焼却施設	75m ³ /日
廃プラスチック類の焼却施設	40t/日
その他産業廃棄物の焼却施設	115t/日

3号焼却炉

流動床方式



川崎物流センター



ウェステックかながわに隣接した廃棄物の積替え・保管施設です。小型車両で搬入された廃棄物を当社大型車両でウェステックいわきに搬送し、処分します。運搬効率に配慮し、施設を運用しています。

インプット・アウトプットの状況

インプット

	2022年度	2023年度	2024年度
廃棄物受入量(t)	96,191	98,609	99,814
エネルギー使用量(原油換算)(kℓ)	3,614	3,523	—
省エネ法 ^{※1} 改正後	—	25,990	25,520
原単位(kℓ/売上百万円)	0.37	0.35	—
省エネ法 ^{※1} 改正後	—	2.56	2.48
水資源投入量(千m³)	1,222	1,302	1,336
原材料の使用量(t)	9,938	9,383	9,595

※1 省エネ法(エネルギーの使用の合理化及び非化石エネルギーへの転換等に関する法律)：一定規模以上の事業者に対してエネルギーの使用状況などについて定期報告を課し、省エネや非化石エネルギーへの転換に関する取り組みの見直しや計画の策定などを行うよう定めた法律。法改正前後における評価の継続性を担保するため、2023年度のエネルギー使用量は改正前後の省エネ法に基づく数値を記載している。改正により非化石エネルギーが報告対象に加わった。



アウトプット

	2022年度	2023年度	2024年度	
廃棄物排出量	最終処分量(t)	22,040	21,900	21,552
	リサイクル量(t)	1,822	2,288	2,441
温室効果ガス排出量(CO ₂ 換算)(t)	省エネ法改正・SHK制度変更後 ^{※2}	144,458	147,798	—
	原単位(t/売上百万円)	—	52,435	44,586
	省エネ法改正・SHK制度変更後 ^{※2}	14.85	14.53	—
	排水量(千m³)	—	5.16	4.33
	排水量(千m³)	1,033	1,076	1,104

※2 省エネ法改正・SHK制度変更前後における評価の継続性を担保するため、2023年度の温室効果ガス排出量は、改正・変更前後の省エネ法・SHK制度に基づく数値を記載している。廃棄物に係る排出量の扱いに変更があった。

各種排出物の測定・分析値

焼却炉排煙の各種排出物濃度の自主基準値は、大気汚染防止法による排出基準値以下に設定しています。2024年度も廃棄物処理施設の適正な維持管理により、全て自主基準値以下となっています。

※測定値は年間の最大値を記載しています。

ウェステックいわき

	排出基準値	自主基準値	7号炉	8号炉
ばい煙濃度 硫黄酸化物濃度(volppm) ^{※3}	423	100	2.9	2.2
塩化水素濃度(mg/m³N)	700	80	0.6	1.1
窒素酸化物濃度(volppm)	250	160	72	82
ばいじん濃度(g/m³N)	0.08	0.064	0.008	0.006
ダイオキシン類濃度(ng-TEQ/m³N)	1.00	0.10	0.002	0.00055

※3 硫黄酸化物濃度について、大気汚染防止法における排出基準値はK値6(=423ppm)。いわき市との公害防止協定における各炉の排出基準値はK値4.5(=317ppm)。

PRTR法に基づく届出

化学物質排出把握管理促進法(PRTR法)該当品目は31種類あり適切に届出を行っています。ここでは大気汚染防止附則の優先取り組み物質の中から4種の移動量・排出量について記載しています。

ダイオキシン類移動量	200 mgTEQ/年
ベンゼン排出量	5.5 kg/年
トリクロロエチレン排出量	5.5 kg/年
テトラクロロエチレン排出量	5.5 kg/年

ウェステックかながわ

	排出基準値	自主基準値	1号炉	2号炉	3号炉
ばい煙濃度 硫黄酸化物濃度(m³N/h) ^{※4}	9.07 (各炉)	2.52 (3炉合計)	1.700 (3炉合計)		
塩化水素濃度(mg/m³N)	700	100	36	27	7.8
窒素酸化物濃度(volppm)	250	46	37	21	32
ばいじん濃度(g/m³N)	0.08	0.02	0.002	<0.001	<0.001
ダイオキシン類濃度(ng-TEQ/m³N)	1.00	1.00	0.018	0.026	0.056

※4 硫黄酸化物濃度について、神奈川県条例による事業所全体の排出基準値は2.52m³N/h。

※5 測定下限値未満。

PRTR法に基づく届出

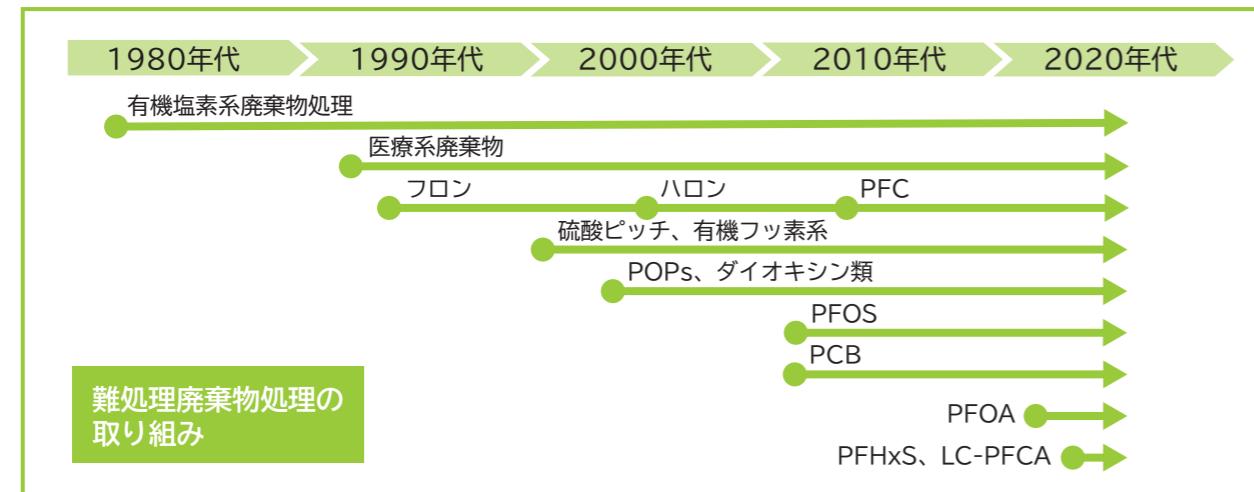
化学物質排出把握管理促進法(PRTR法)該当品目は1種類あり適切に届出を行っています。

ダイオキシン類移動量	11,310 mg-TEQ/年
------------	-----------------

廃棄物処理を通して社会貢献

難処理廃棄物の処理

当社は培ってきた『技術力』を活かして難処理廃棄物の無害化処理に力を入れて取り組んできました。有機塩素系廃棄物から始まり、フロンやダイオキシン類、近年では低濃度PCBやPFOS、PFOAなど難分解性が国内外で問題視される化学物質の無害化処理に貢献しています。



環境修復事業

難処理廃棄物処理の技術力や、多種多様な廃棄物に対応できるノウハウを活かして、不適正保管された廃棄物の処理や地震や大雨で発生した災害廃棄物の処理などの環境修復事業にも取り組んでいます。これからも廃棄物処理事業を通して、地域社会そして地球環境の保全に貢献してまいります。

◆災害廃棄物の処理

2023年9月に発生した令和5年台風13号はいわき市に甚大な被害を与え、約1.1万トンの災害廃棄物が発生しました。当社は、市より委託を受けた(一社)福島県産業資源循環協会の一員として災害廃棄物処理の管理業務を担い、復旧に貢献しました。処理は2024年5月に完了しました。



仮置き場の様子



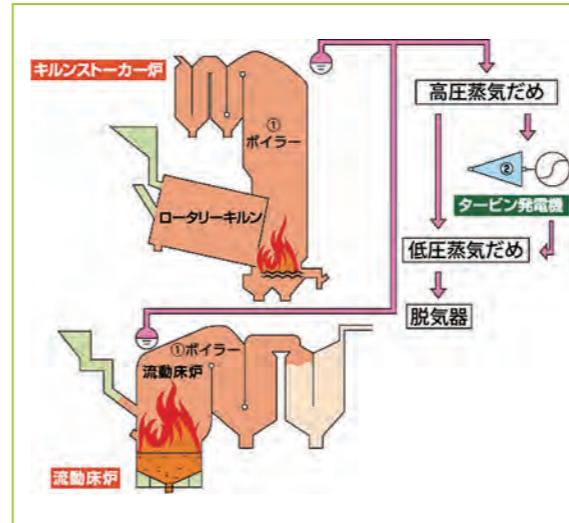
廃棄物の搬入を誘導する従業員

サーマルリカバリー

ウェステックかながわにおける廃棄物発電(サーマルリカバリー)

ウェステックかながわは、焼却炉3基の排熱を回収するサーマルリカバリーにより最大4,800kWhの発電能力があります。

発電した電力はウェステックかながわで使用し、余剰電力は売電しています。余剰エネルギーを電力の形で社会に還元し、カーボンニュートラルに貢献しています。



①ボイラー

燃焼ガスを冷却し、発生蒸気を場内設備及び発電設備に供給します。



②タービン発電機

ボイラーにて発生させた蒸気により発電を行います。発電した電力は、プラント内で使用し、余剰電力は売電します。



VOC排ガス処理設備「GASTAK」



環境エンジニアリング事業部では、独自技術を活かした環境関連設備の提供により、大気汚染の防止や上水の水質改善を図ることで環境負荷を低減し、持続可能な社会の実現に貢献できるよう日々取り組んでおります。

環境エンジニアリング事業部 環境営業部 水環境営業課
葛岡 宏太

有機溶剤の回収、有害・悪臭物質の除去

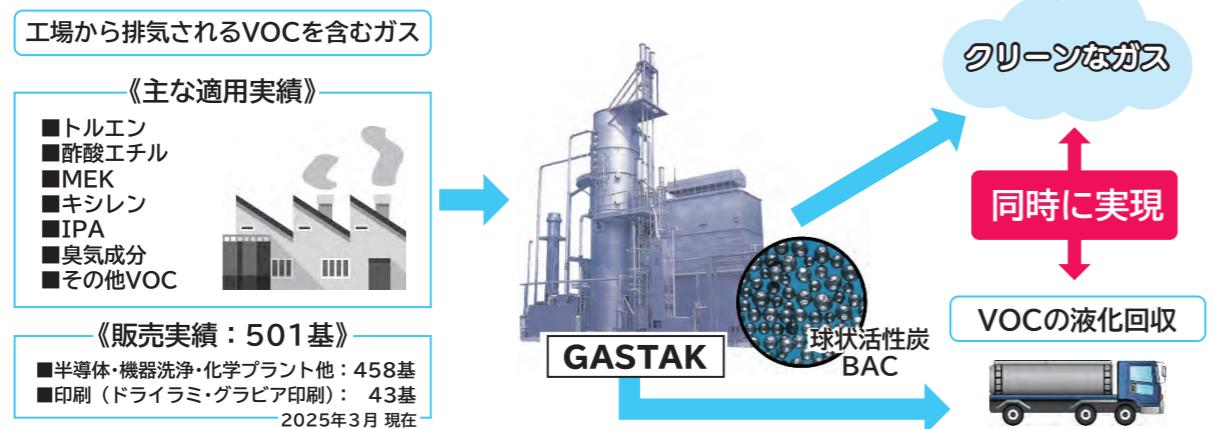
当社の「GASTAK」は、排ガス中に含まれる有機溶剤の回収や、排ガス中の有害・悪臭物質の除去を目的とした画期的な排ガス処理設備です。

GASTAK®



GASTAKの概要

GASTAKは、㈱クレハ製球状活性炭(BAC)を吸着材として使用し、工場の排気に含まれる有機溶剤(VOC:揮発性有機化合物)を除去すると同時に、液体の状態で回収します。回収したVOCは高品質であるため、工場の製造工程において再使用(Reuse)したり、機器洗浄や助燃剤などの他用途で再利用(Recycle)することができ、VOCの消費量を削減(Reduce)します。



燃焼設備からGASTAKへの置き換えで想定されるCO₂排出量削減の効果

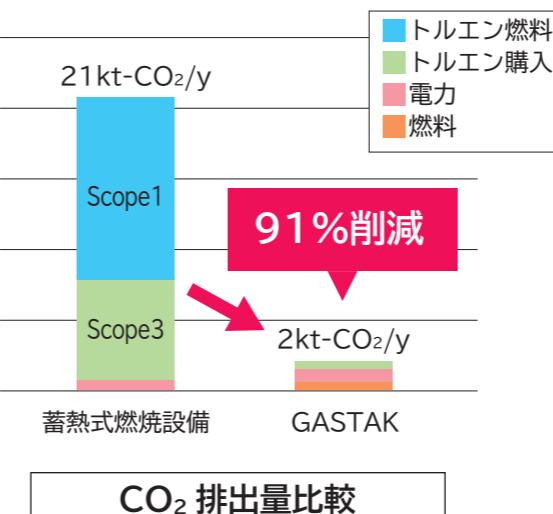
温室効果ガスの国際的な算定基準となっているGHGプロトコル[※]では、サプライチェーンのCO₂排出量をScope-1（事業者自らによる温室効果ガスの直接排出）、Scope-2（他社から供給された電気、熱・蒸気の使用に伴う間接排出）、Scope-3（事業者の活動に関連する他社の排出）に分類しています。

工場の排気に含まれるVOCは多くの場合、燃焼設備により酸化分解され、CO₂として排出されます。この燃焼設備をGASTAKに置き換えることで、VOCを資源として再使用または再利用することにより、VOC燃焼に伴うCO₂排出量(Scope-1)とVOCの新規購入に伴うCO₂排出量(Scope-3)を大幅に削減することができます。

下図に代表的な燃焼設備(蓄熱燃焼設備)とGASTAKのCO₂排出量の比較を示します。

※GHGプロトコル：温室効果ガス(Greenhouse Gas : GHG)の排出量を算定・報告する際の国際的な基準。

国際的に認められた温室効果ガス排出量の算定と報告の基準として、その利用の促進を図ることを目的に策定された。2011年10月に公表され、現在、温室効果ガス排出量の算定と報告の世界共通基準となっている。



蓄熱式燃焼設備	21 kt-CO ₂ /y
GASTAK	2 kt-CO ₂ /y
削減効果	19 kt-CO ₂ /y

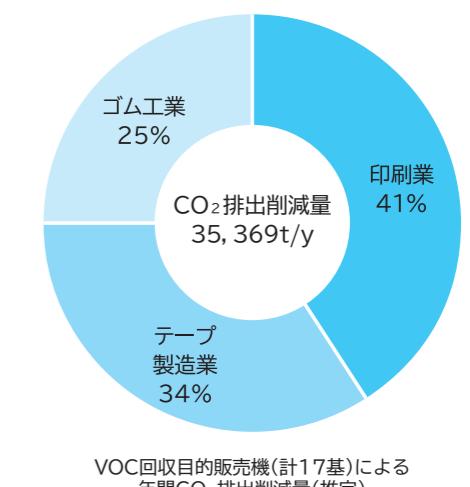
CO₂排出抑制への貢献

排ガス中に含まれるVOCは、処理せずに放出すると大気中で分解され、最終的には光化学オキシダントなどの有害物質に変化します。また、燃焼設備により処理すると、CO₂として排出されます。

一方、回収設備でVOCを液化回収すると、排ガス中のVOCの再利用が可能となり、有害物質の排出を抑制すると同時にCO₂の排出を削減することが可能となります。

当社がこれまでにVOC回収目的で販売した事例を基に、推定される年間CO₂排出削減量をグラフで示します。

当社はこの分野においても、引き続き環境負荷の低減に貢献してまいります。



水処理設備　浄水・水質浄化

安全文化の構築

水処理技術と社会貢献について

自然環境において、あらゆる生物と関係を保ちながら循環している水。この大切な水資源が、河川や湖沼などの汚染により深刻な危機にさらされています。

水道原水中のカビ臭・異臭味物質の除去、水道管の腐食を抑制し赤水の発生を防止、閉鎖性水域汚濁の象徴であるアオコを抑制し美しい湖沼を取り戻すなど、当社は独自の技術で、潤いのある水環境の提供・維持に引き続き貢献していきます。

水道原水のカビ臭・異臭味物質の除去

通常の浄水処理で除去することができないカビ臭や異臭味物質が水道原水中に含まれている場合、活性炭の吸着による除去が有効です。

当社独自の急速スラリー形成器を備えた「ドライ粉末活性炭注入設備」であれば、スムーズに活性炭をスラリー化し、効率よく吸着除去できます。

また、粉塵発生や配管詰まりも無く、運転管理が容易です。



ドライ粉末活性炭
注入設備



炭酸ガス注入設備



消石灰(水酸化カルシウム)溶液注入設備
「オネストライマー」



シャロークリーン

水道原水の適正な水質管理

浄水場が取水する原水において、高いpH値をコントロールする必要がある場合、当社では安全性・取扱性に優れた独自の「炭酸ガス注入設備」を提供することで、浄水場における適正な水質管理の実現を支えています。

水質改善による水道施設の腐食防止

水道事業体向け消石灰(水酸化カルシウム)溶液注入設備「オネストライマー」は全国各地の浄水場に導入実績があります。(総計108基)

水質改善による水道施設(浄水配水設備)の腐食防止や延命化に効果を発揮し、安全でおいしい水の供給に貢献しています。

生態系に配慮した藻類の抑制

河川や湖沼の富栄養化が進むと、湖沼・貯水池では藍藻類によって引き起こされる「アオコ」が問題となります。

「シャロークリーン」は、アオコ発生の必須要素の一つである「光」に着目し、水面の一部を必要最小限で遮光します。これにより水中の生態系を破壊せずに藻類の異常増殖を抑制します。



「安全はすべてに優先する」の基本理念の下、健康で明るく働きやすい職場づくりを目指し、クレハ環境グループに関わる全ての皆さまから安心と信頼が得られるよう、安全衛生活動の継続に努めてまいります。

環境安全本部 環境安全部 副部長 小林 茂樹

2024年度の取り組み

『安全はすべてに優先する』を安全衛生管理方針に掲げ、「安全文化の構築」や「安全意識の底上げ」に継続して取り組んでいます。

- ①全国的な安全・衛生行事の趣旨を踏まえた、当社独自の安全衛生活動を実施
- ②各種パトロールを通じて、作業環境の適切な改善を実施
- ③リスクアセスメントとヒヤリハット活動の強化による災害防止を推進
- ④リスクアセスメントの実績に対し、定期的な監査を実施し活動を向上
- ⑤各種教育の実施及び関係会社への教育の展開・徹底
- ⑥防災訓練・非常時の連絡訓練実施及び外部での防災訓練・講習に参加し、防災体制を向上
- ⑦各種健康診断の実施結果に基づき、二次健診受診の推進による従業員の健康改善
- ⑧ストレスチェック受検による働きやすい職場環境への改善

当社従業員による災害発生件数 (派遣社員、パート、アルバイト等を含む)

事故内容	2022年	2023年	2024年
死 亡 災 害	0	0	0
休 業 災 害	1	0	1
不 休 災 害	3	0	4
赤 チン 災 害	4	2	3
合 計	8	2	8

上記の集計期間は暦年

休 業 災 害 4日以上休業の災害

不 休 災 害 1~3日休業の災害、休業0日だが継続的に通院の必要なケガ

赤 チン 災 害 休業を伴わない災害(病院で検査・治療(通院不要のみ)した軽度のケガ、応急処置したケガ)

ヒヤリハット摘出件数

事故の型	2022年度	2023年度	2024年度
1 墜落・転落	107	154	172
2 転倒	395	454	622
3 激突	230	280	299
4 飛来・落下	119	192	183
5 崩壊・倒壊	39	39	59
6 激突され	70	99	145
7 はさまれ・巻き込まれ	53	98	175
8 切れ・こすれ	43	69	90
9 踏み抜き	9	8	7
10 おぼれ	0	1	0
11 高温・低温の物と接触	70	87	175
12 有害要因との接触	118	201	298
13 感電	3	17	16
14 爆発	3	3	1
15 破裂	0	1	1
16 火災	8	25	22
17 交通災害(道路)	731	880	840
18 交通災害(その他)	4	11	0
19 動作の反動・無理な動作	51	52	83
20 その他	80	104	115
21 分類不可	24	55	62
合 計	2,157	2,830	3,365

さまざまな取り組み

総合防災訓練

ウェステックいわきの総合防災訓練では、いわき市勿来消防署や㈱クレハイいわき事業所保安課の協力のもと、放水や負傷者の救急搬送の訓練を行いました。

ウェステックかながわの総合防災訓練では、災害が発生した際に設備を停止する手順を確認したほか、川崎市千鳥地区防災協議会の協力のもと、放水訓練を行いました。



消防訓練の様子(ウェステックいわき)



点呼の様子(ウェステックかながわ)

CSR地域対話集会

11月22日、㈱クレハイいわき事業所にて第22回CSR地域対話集会が開催されました。㈱クレハと当社を含むグループ会社が、地域の方々にCSR活動について報告しました。



当社の取り組みを紹介しました

川崎臨海部の夢発見！バスツアー

8月8日、川崎市市制100周年記念事業の一環として、小学生を対象とした企業見学会が開催され、子供たちとその保護者ら約50名がウェステックかながわを見学に訪れました。



見学の様子

安全大会

1月18日、本社会議室にて第5回安全大会を開催しました。日本製鉄㈱安全防災推進部部長の朱宮徹様をお招きし、労働災害をテーマとした特別講演を行ったほか、安全衛生に関する改善報告の表彰式を行いました。



特別講演の様子



改善報告表彰の受賞者

地域行事への参加

本社周辺地区で毎年行われるいも煮会やバーベキューなどの地域行事に参加し、地域の方々と交流を深めました。



地域の方々とゲームを楽しみました(中田区区民交流いも煮会)



お土産に観葉植物をお渡しました(駅迦堂自治会交流バーベキュー)

ヒヤリハット活動報告会

2月18日、各部署から選出されたヒヤリハット活動推進委員による活動報告会を行いました。2024年度のテーマ「ヒヤリハットから改善活動へ」のもと、各グループがヒヤリハットの意識向上や危険源の抽出・除去を目指して取り組んだ内容について発表しました。



発表の様子

漏洩対策訓練

9月28日、通運部が漏洩事故を想定した訓練を行いました。運搬中の機器から荷台に廃液が漏洩したことを見定し、廃液の回収作業や関係部署への連絡体制について確認しました。



訓練の様子

市民総ぐるみ運動

春と秋に開催されるいわきのまちをきれいにする市民総ぐるみ運動に参加し、本社周辺のゴミ拾い、草むしり、側溝清掃を行いました。



清掃の様子(6月)

働き方検討委員会

2024年度より働き方検討委員会を設置しました。より良い職場環境構築のために労使一体となり様々な検討を進めています。



委員会の様子

さまざまな取り組み

なこそ授産所に寄贈

11月7日、古切手や食料品などをなこそ授産所に寄贈しました。なこそ授産所は、障がいを持つ方々がさまざまな仕事を通じて地域での自立を目指すとともに、社会へ貢献している施設です。



授産所の皆さん

産業医講話

9月26日、当社の産業医である釣巻医師による「ストレスマネジメント」をテーマとした衛生講話を行いました。



釣巻医師

ペットボトルキャップ回収活動

2024年度は129kg（ポリオワクチン64人分）のペットボトルキャップを回収し、2025年春に福島県立磐城農業高等学校インタークト部に寄託しました。今後同校を通じて「世界の子供にワクチンを日本委員会」へ寄付される予定です。



磐城農業高校に寄託しました

交通安全講話

12月13日、いわき南警察署の有松交通課長を講師にお招きし、交通安全講話を行いました。



有松交通課長

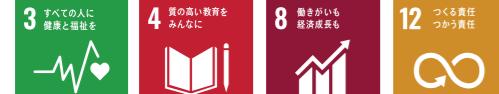
日本メディカル・ウェイスト・マネジメント(株)子会社化



株式譲渡のセレモニーを行いました

12月6日付で、当社は日本メディカル・ウェイスト・マネジメント株(本社：東京都港区)の株式50.26%を取得し、子会社化しました。

日本メディカル・ウェイスト・マネジメント株は当社ウェステックかながわに搬入する医療廃棄物のおよそ3割を担う、重要な収集運搬会社です。今後これまで以上に緊密な連携の下で事業運営を行ってまいります。



ひめゆり総業の取り組み

当社グループ会社であるひめゆり総業株は1968年に創業し、いわき市で管理型最終処分場の運営管理を行っている会社です。環境省が策定した環境マネジメントシステム「エコアクション21」の認証を2009年12月に取得し、登録事業者として継続的に環境を改善するための取り組みを行っています。

平太郎第三期処分場



ひめゆり監査委員会

近隣住民代表の方々に処分場の維持管理状況を監査していただく「ひめゆり監査委員会」を春と秋の年に2回実施しています。



監査委員会の様子(10月)

防災訓練

9月30日、防災訓練を実施しました。大雨による停電で処分場内のポンプが停止したことを想定し、発電機を取り付ける手順を確認しました。



発電機を運搬する様子

ふくしま産業廃棄物バスツアー2024

11月30日、福島県産業廃棄物課が主催する県内の小中学生を対象とした企業見学会が開催され、子供たちとその保護者ら約40名が見学に訪れました。



水処理設備を見学する参加者

健康経営優良法人に認定

経済産業省及び日本健康会議が選定する「健康経営優良法人2025（中小規模法人部門）」に認定されました。今後も、従業員が健康で安心して、やりがいを持って働くことができる職場を実現するため、健康保持・増進のための取り組みを進めてまいります。



会社情報

会社概要

商 号	株式会社クレハ環境
本社所在地	〒974-8232 福島県いわき市錦町四反田30番地
主な事業所	ウェステックいわき、ウェステックかながわ
設 立	1971年12月1日
資 本 金	2億4,000万円
従 業 員 数	376名(2025年3月末)
主要な事業	産業廃棄物の収集運搬・処分、環境修復事業 環境エンジニアリング事業、発電事業他

事業拠点



グループ会社

ひめゆり総業株式会社

本社所在地	〒973-8407 福島県いわき市内郷宮町町田105番地
事 業 内 容	産業廃棄物の最終処分(管理型埋立)
Webサイト	https://himeyuri-sougyo.com/

日本メディカル・ウェイスト・マネジメント株式会社

本社所在地	〒105-0014 東京都港区芝1丁目15-14 オフィスニューガイア浜松町No.16 4階
事 業 内 容	産業廃棄物収集運搬業 (産業廃棄物、特別管理産業廃棄物)
Webサイト	https://www.nippon-medical.co.jp/

沿革

1971年	12月	呉羽梶包株式会社設立
1975年	10月	社名を呉羽業務株式会社に改める
1977年	3月	福島県産業廃棄物収集・運搬業・処分業許可取得
1984年	7月	社名を呉羽環境株式会社に改める
1986年	10月	7号焼却炉 自社開発により設置、稼働
1993年	5月	8号焼却炉 自社開発により設置、稼働
1998年	3月	ISO14001認証取得
1998年	4月	7号焼却炉 自社開発により更新
2006年	4月	社名を株式会社クレハ環境に改める
2006年	6月	資本金を2億4000万円に増資
2010年	4月	かながわ事業所を開設
2011年	4月	川崎物流センターを開設
2012年	4月	環境エンジニアリング事業を開始
2014年	4月	ウェステックパークをウェステックいわきに、 かながわ事業所をウェステックかながわに改める
2017年	3月	ISO9001認証取得
2019年	4月	ひめゆり総業株式会社を完全子会社化 W.I.Lセンター開設 ISO45001認証取得
2021年	12月	創立50周年を迎える
2024年	12月	日本メディカル・ウェイスト・マネジメント株式会社子会社化

営業に関するお問い合わせ

産業廃棄物に関するお問い合わせ

営業本部 TEL 0246-63-1331
FAX 0246-63-1332

環境エンジニアリングに関するお問い合わせ

環境営業部 TEL 0246-63-1358
FAX 0246-63-1359

クレハグループ レスポンシブル・ケア方針

- ①国際規則や法令を守ります
- ②地球環境に配慮し、安全な操業をします
- ③安全な製品を社会に提供します
- ④環境・安全の情報を管理し、役立てます
- ⑤社会とのより良い関係を築きます

レスポンシブル・ケア(RC)とは…

化学物質を製造または取り扱う事業者が自己決定・自己責任の原則に基づき、化学物質の開発から、製造、流通、使用、最終消費を経て廃棄・リサイクルに至る全ライフサイクルにわたって「環境・安全・健康」を確保する改善活動を継続的に行い、社会との対話・コミュニケーションを行うことです。

クレハグループは1995年にRC活動の実施を社会に対して宣言しました。

クレハグループRC協議会構成図





本社

所在地：福島県いわき市錦町四反田30番地

ウェステックいわき

所在地：福島県いわき市錦町落合136番1号



ウェステックかながわ

所在地：神奈川県川崎市川崎区千鳥町6番1号



本書はWebサイトでも公開しております。
<https://www.kurekan.co.jp/>

◆本書に関するお問い合わせ◆

総務部 TEL 0246-63-1231
FAX 0246-63-1232

Fontworks
UDFont

読みやすい、フォント
ワークスUD（ユニバーサルデザイン）フォントを
本文に使用しています。

2025年10月発行